

前回定例会(平成22年12月1日)以降の行政の動き

平成23年1月12日
新 潟 県

1 安全協定に基づく状況確認

○平成22年12月10日(月例状況確認) 県、柏崎市、刈羽村

<主な確認内容>

- ・ 3号機系統機能試験の状況(自動減圧系機能)
- ・ 5号機起動試験の状況(運転パラメータ等)

2 技術委員会の開催

[設備健全性、耐震安全性に関する小委員会]

○平成22年12月13日(第48回)

<議事概要>

【5号機起動試験の実施状況について】

- ・ 東京電力から、定格熱出力段階までの試験結果について説明があり、委員から問題を指摘する意見はありませんでした。

【3号機の健全性評価について】

- ・ 東京電力から、原子炉建屋と屋外重要土木構造物の点検・解析の結果について説明があり、耐震壁のひび割れ発生状況や解析評価の方法等が議論されました。

【7号機使用済制御棒のひびの調査について】

- ・ 東京電力から、ひびの状態を考慮して制御棒の構造健全性を解析した結果、健全性が確保されることを確認したとの説明がありました。
- ・ 今後も東京電力の調査状況等に応じて、議論することとされました。

【ハンガーに関する委員質問への回答】

- ・ 東京電力から、ハンガーの点検・検査の方法や結果等について追加の説明があり、今後も必要に応じて議論することとされました。

3 その他

(1) 3号機における制御棒の動作について

○平成22年12月1日: 報道発表(事象の発生)

東京電力から、定期検査中(燃料装荷作業中)の柏崎刈羽原子力発電所3号機で、制御棒の1本が操作していないにもかかわらず、動作した可能性を示す警報が一瞬発生し、また元どおりの正常位置(全引抜位置)に復帰したので調査しているとの報告がありました。

また、動作した可能性がある制御棒の周辺には未だ燃料は装荷されていないため、安全上の問題はないと報告を受けました。

なお、県の環境放射線等モニタリング結果には、これまで異常はみられません。

県では、東京電力に原因の調査と報告を求めました。また、東京電力に対し、原因の調査は安全第一に、慎重に作業を進めるように求めました。

○平成22年12月17日: 報道発表(原因調査の結果)

平成22年12月1日に定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所3号機で発生した、制御棒の1本が予期せぬ動作をした事象について、東京電力から原因調査の報告を受けました。

県は、改めて、東京電力に対し、今後も安全第一に、慎重に点検作業を進めるように求めました。

(2) 点検周期を超過した機器の確認について

○平成22年12月21日: 報道発表

東京電力から、運転中の1号機、5号機で、東京電力が定めている点検周期を超過していた機器、または今回の定期検査中に実施すべきであるものの点検計画から漏れていた機器が合計40機器(1号機=37機器、5号機=3機器)見つかり、1号機については先週までに点検を完了し、5号機については明日から出力を低下して点検を実施するとの連絡を受けました。

今回の事案について、原子力安全・保安院は、1, 5号機について、「直ちに安全上の問題が生じるものではない」と評価した上で、他に同様の事例がないか等調査し、2月末まで

に報告するよう指示しています。

県としても、今回の事案は、発電所の品質保証に関わる問題であることから、東京電力に対し、柏崎刈羽原子力発電所の全号機について早急に調査を行い報告するとともに、再発防止対策に万全を期し、安全管理を一層徹底するよう求めました。

(3) 使用済み制御棒のひび割れ点検結果について

○平成23年1月7日：報道発表

東京電力から、柏崎刈羽原子力発電所で昨年11月以来実施していた、使用済み燃料プールに保管している使用済み制御棒のひび割れ点検の結果について報告を受けました。

点検を実施した使用済み制御棒全50本のうち28本で、制御棒の軸部分（タイロッド）等でひび割れが見つかりました。制御棒に生じたひび割れについては、既に県の設備・耐震小委員会において、それまでの点検を基にひびの数や長さを大きめに想定した場合でも制御棒の機能、安全性に問題はないことを確認していますが、今回の点検結果でもその想定を越えるひび割れはありませんでした。

原子力安全・保安院は、この点検結果について、制御棒の構造健全性及び制御棒挿入性の機能は確保されているとの報告内容であり、「直ちに安全上の問題が生じるものではない」と評価しています。

なお、現在運転中の7号機で使用中の制御棒のうち、上記のひび割れが見つかった制御棒と同型のもの25本については、これまで定期的に動作確認を行っており、動作に異常が無いことを確認している旨、報告を受けています。

このことについて、県の設備・耐震小委員会の北村委員長から以下のとおりコメントをいただきました。

北村正晴委員長（東北大学名誉教授：原子炉工学）

「東京電力の点検結果では、既に確認した制御棒にひび割れを想定した際の健全性評価結果の範囲を超えるものはなく、現在運転中の7号機において、安全上の重大な問題が生じるものとは考えられない。しかしながら、多数の制御棒にひび割れが生じていることもあり、引き続きひび割れの発生原因の究明と対策に徹底して取り組んで欲しい。」

県は、東京電力に対し、運転中の7号機について引き続き制御棒に異常が無いことを適切に確認するとともに、ひび割れが生じた原因の究明とそれに基づく対策の実施を求めました。

(4) 平成22年度第2四半期の環境放射線監視結果について

○平成22年12月14日：報道発表

新潟県は、柏崎刈羽原子力発電所周辺地域で実施している環境放射線監視調査の結果を四半期ごとに速報として公表することとしています。

平成22年度第2四半期（平成22年7月～9月）における環境放射線監視調査の結果は、過去の測定値の範囲内でした。

（「監視結果の概要」は以下のホームページでご覧いただけます。）

<http://www.pref.niigata.lg.jp/genshiryoku/1292187661397.html>

(5) 「柏崎原子力広報センター検討委員会」の検討結果について

○平成22年12月22日：報道発表

県では、「柏崎原子力広報センター検討委員会」を設置し、柏崎原子力広報センターの必要性及び今後のあり方について検討していただきました。

このたび、検討委員会が検討結果をとりまとめ、検討委員会から県に対し報告書が提出されました。

【これまでの開催状況】

第1回検討委員会（平成22年10月19日）

- ・センターの概要、事業の内容等の報告
- ・センターに期待する役割や必要性について

第2回検討委員会（平成22年11月9日）

- ・センターの今後の事業内容について①
- ・センターの今後の管理運営方法について

第3回検討委員会（平成22年11月30日）

- ・センターの今後の事業内容について②
- ・検討結果のとりまとめについて

（報告書は以下のホームページでご覧いただけます。）

<http://www.pref.niigata.lg.jp/genshiryoku/1280433724163.html>